

(様式)

## 常任委員会行政視察報告書

委員会名	経済建設常任委員会	委員名	あべ なお
視察地	島根県出雲市		
調査事項	出雲農業未来の懸け橋事業及び新出雲農業チャレンジ事業について		
視察年月日	令和7年11月19日		
視察内容	<p>出雲市</p> <p>出雲農業未来の懸け橋事業及び新出雲農業チャレンジ事業について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・暑熱対策について</li></ul> <p>特産品であるデラウェア等のブドウについて、近年の酷暑で生産量の落ち込み、農業者の作業可能時間の低迷などが課題としてあがっているとのことで、スマート農業としてブドウの生産圃場であるビニールハウスにセンサーを設置し、自動で開閉してハウス内の温度上昇に対応していると。今後は、ハウス外環境の気温や天候をデータ化して、よりブドウの生育環境に適したハウス内環境の整備に向けて実証実験を行なって行くそう。</p> <p>本市の園芸農業についても、近年の暑さでハウス内の温度が急上昇して作物の生育環境に影響が出ていると農業者からも聞いていることから、センサーやデータ化についても検討していく必要があると考える。また、本市の園芸農業が盛んなエリアにおいては、アライグマ等の獣害の報告が多く上がっている。今後ハウスの自動開閉が実装となった場合、獣害対策もしっかりと講じなければ、収量の確保が困難になることが予想されることから、こういったスマート農業の導入に当たっては農政部のみならず環境部との連携が必要になるものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・農地管理について</li></ul> <p>出雲市では、農地管理を目的とした団体を設立し、市と連携し耕作放棄地の発生を防いでいるとのこと。この団体は、農業法人にあたるようなもので、団体自体も営農をしており、一定の市による支援を受けることを条件に、条件の悪い土地の営農を担っている。離農希望や新規就農希望の人をマッチングする機能を有しており、特に栽培したい作物の希望をヒアリングして、同じ作物の圃場が近くなるように計画的に農地のマッチングをしており、栽培技術や知識の共有が農業者同士でも可能になっている。</p> <p>この手法は農水省のモデル事業として全国から視察が来ている状況とのことで、北海道は農地の面積規模が出雲市の何倍もありそのまま事業を導入したら管理が大変な部分もあると思うが、このように農業者同士で農地のやりとりをせずに第三者機関に任せることで、大きなトラブルの発生予防や条件の悪い土地に借り手、買い手がつかないといった状況が回避できることと思う。</p>		

(様式)

## 常任委員会行政視察報告書

委員会名	経済建設常任委員会	委員名	あべ なお
視察地	鳥取県鳥取市		
調査事項	鳥取市民体育館エネトピアアリーナについて		
視察年月日	令和7年11月20日		
視察内容	<p>鳥取市</p> <ul style="list-style-type: none"><li>鳥取市民体育館エネトピアアリーナについて</li></ul> <p>PFI 方式で設置した鳥取初の体育館であるとのこと。鳥取県は県民に対する体育館（スポーツができる施設）の数が日本一とのこと聞いて納得というくらい、平日の午前中にも関わらず利用者がとても多く、スポーツをする習慣が県民に根付いていることがよくわかった。</p> <p>ジムについても、利用料が1回の料金が設定されたいわゆるビジター料金その他、デイトタイム、ナイトタイム、オールタイムと料金枠が一般的な民間のスポーツジムと同じであった。</p> <p>本市のこういったジム機能を持つ施設は1回券か回数券での販売が主流である。こういったデイトタイムのような利用料金体系の導入は回数券と比較しても高単価であることから、施設としての収益向上にもつながるし検討すべきであると感じた。</p> <p>意見交換の場では、設置方式に関して他の議員からも多くの質問が挙がり、財政的な課題も多くあることから非常に白熱したものであった。そういうタイミングでは市民が利用するにあたり利便性向上にどのような取り組みをしたのかといったことを聞きにくく感じてしまい、その後の施設見学の際に色々質問をしたわけだが、実際に施設を見学し目で現物を見ながら質問ができたので結果的に非常に良かった。</p> <p>先に述べたジムの利用については市民の主婦に話かけたら「安くていいですよ。遅くまでやってるし」や「夜に娘と来ることもあるし」と市民の生活パターンに即した利用が手頃な価格で実現できているんだなということがわかった。旭川市内の施設は冬季の夜間はアクセスのしにくさはあるものの、利用者が少なくても一定の収益を上げるには利用料金体系の見直しが必要であると鳥取市民の声を聞いて改めて実感した。</p>		

(様式)

## 常任委員会行政視察報告書

委員会名	経済建設常任委員会	委員名	あべ なお
視察地	大阪府高槻市		
調査事項	安満遺跡公園について		
視察年月日	令和7年11月21日		
視察内容	<p>高槻市</p> <p>・安満遺跡公園について</p> <p>園内にかつて京都大学附属農場があったことから馬小屋等その建物を活用したレストランがあり、高槻市の食材を使用した地産地消のメニューが多くあった。テーマは「farm to Table」とのことで、メニューを実際に見てみると地場産の卵を使ったオムライスや地元ブランド牛が食べられるものなど、思っていた以上に本格的なメニュー構成だった。Instagram を開設しているとのことでアカウントを見てみたらフォロワーも 1,500 人超でそのほとんどが若い世代や子育て主婦層であり、こうした飲食店を目的とした若い世代の来園が多いんだらうと予測できた。結婚式も可能とのことで、リノベーションした店内はお식을挙げるのに何の問題もないレベルで、歴史的価値のある建造物の利活用にはこういった方法もあるのだなと感じた。</p> <p>本市においても雪の美術館の復活を願う声があるが、いかんせん規模が大きすぎると感じており、このレストランくらいの小規模な建物の方が現代の若い世代のニーズに合致していると感じることから、小規模化したダウンサイジングありきの建物のリノベーションと利活用が維持費という視点からも良いと感じた。</p> <p>その他、管理棟がある建物内では地元の和菓子屋さんとのコラボとして「アマちゃんどら焼き」と「アマちゃん最中」があり、どちらも公園公式のマスコットキャラクターの焼き印が入っており、高槻市職員のお薦めだったので買ってみた。地元の来園者も購入し公園内ベンチで親子でどら焼きを半分こしているのを見かけたのもあり、こういった地産地消も地元経済の活性化につながると感じたし、こうして地元のお菓子屋さんとのコラボは面白いなと感じた。お土産として子供達に渡したら、マスコットキャラクターに興味津々で安満遺跡公園のホームページを見るまでに至ったことから、本市においても地元民にも日常的に食べてもらえるあさっぴーのお菓子があると良いと考える。</p>		